

令和元年11月15日
(一財)石川県県民ふれあい公社

石川県ふれあい昆虫館

国内初！

「オウサマゲンゴロウモドキ」の生体展示開始について

石川県ふれあい昆虫館では、国内初となる「オウサマゲンゴロウモドキ」の生体展示を開始します。本種は、現存するゲンゴロウの中で世界最大種（体長4cm超）です。

この度、ラトビア共和国にあるラトガル動物園の協力により輸入が実現し、石川県ふれあい昆虫館を含む国内3か所で同時に展示することとなりました。

オウサマゲンゴロウモドキ

分 布：ヨーロッパ北部

体 長：38～44mm

希少性：IUCN（国際自然保護連合）の
レッドリストでは危急種（日本
基準では絶滅危惧Ⅱ類に相当）。
ベルン条約の保護動物リスト選
定種。分布地の大半で採集禁止
など保全対象種とされる。



小野田晃治 撮影

■ 展示開始 令和元年11月16日（土）

■ 展示場所 石川県ふれあい昆虫館（石川県）

※当館以外の展示場所

〔 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館（福島県）
北杜市オオムラサキセンター（山梨県） 〕

■ 展示までの経緯 詳細については別紙を参照ください

石川県ふれあい昆虫館

〒920-2113 白山市八幡町戌3番地

Tel: 076-272-3417 Fax: 076-273-9970

担当：渡部 晃平（わたなべ こうへい）

■ 展示までの経緯

オウサマゲンゴロウモドキの幼虫は餌としてトビケラの仲間を好むという特異な食性を持つことが判明していますが、大量のトビケラを集めることは非常に困難です。もし日本で代用食を開発することができれば、本種の域外保全に大きく貢献できるほか、生態解明に関する基礎研究を行う機会の増加や、ヨーロッパ各国において飼育繁殖のハードルを下げられることなどが期待されます。

このような背景の中で、本種が現存するラトビア共和国と日本のゲンゴロウ研究者達が協力した結果、ゲンゴロウ類の優れた飼育繁殖技術を持つ昆虫館（石川県ふれあい昆虫館、北杜市オオムラサキセンター）および水族館（アクアマリンいなわしろカワセミ水族館）の3館で域外保全を開始することになりました。日本の各館がもつ独自の技術を応用することで、希少種オウサマゲンゴロウモドキの安定した飼育繁殖を目標とするものです。

国際的な保護種ですので、ラトビア政府の許可を得た上で生体を捕獲・輸入したものであり、生体が国内に輸入されるのは今回が初めてのことになります。